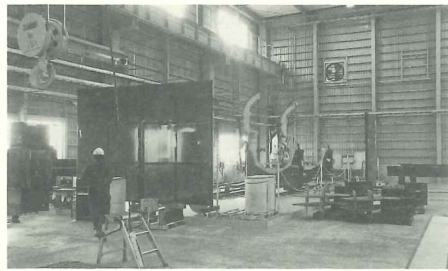


五光工業(佐賀)

柱専用工場を建設

新ヤード整備も進む



新工場に柱加工ラインを整備

佐賀県のHグレードファブ、五光工業(佐賀市、本永勉社長)はこのほど、ヤードとして使用していた隣地に新工場を建設し、柱加工ラインを整備、柱の製作能力を向上させた。これに併せて新たに土地を確保し、新ヤードの整備を進めている。ストック能力は約4倍

以上に大幅に増強される見込みだ。新たに建設したのは、延べ面積2400平方メートルの柱専用工場。メイン工場から柱大組立溶接ロボットシステム15台タイプ2台(それぞれ2アーク)と20台タイプ1台(シングルアーク)、回転機などを移設し、15台吊りクレーン3台と5台吊りクレーン1台を設置するなど柱加工体制を整えた。また、メイン工場を梁専用工場として2工場体制を確立、より効率的な鉄骨製作が可能となり、柱の月産能力は約10%向上して330

トとなった。さらに、新たに7000平方メートルの隣地を確保し、ヤードとして整備を進めている。同社では新工場とした従来のヤードとは別に工場敷地内に置き場ヤード2000平方メートルを有し、新ヤードを加えると計9000平方メートルと従来比約4倍以上のストック能力となるが、これは受注物件の全数検査の際に広いスペースが必要となるために確保したもの。今後、十分に広いスペースを使って全数検査ができることとなった。新ヤードは

12月に稼働する予定で、門型クレーン15台吊りタイプを設置して重量鉄骨にも対応可能だ。

牽引型トレーラーを製作・販売

工場改築と設備導入も

小田鉄工(兵庫)

兵庫県のMグレードファブ、小田鉄工(加西市、小田岳人社長)はこのほど、キッチンカーなどに使用できる牽引型トレーラーの製作販売を開始した。事業再構築補助金に関連

して検討を進め、自家用車で牽引するトレーラーの製作を決めたもの。キッチンカーや簡易型事務所などに活用できる。すでに試作品を製作しており、車やアウトラ関連の展示会でのPRを計画している。このキッチンカー事業のため、創業当時から使用している工場の一部を2層高くし、柱を補強して2・8ト吊りクレーン2基を設置。改築した一部は床を塗り直してキッチンカーのショールームとした。また、製作に使用するためアマダマシンナリーの高精度孔あけ機「3DH-1000Ⅲ」を導入した。

洋上風力向けクレーンを国産化へ

東光鉄工(秋田)

関ヶ原製作所と共同開発で合意

秋田県のHグレードファブ、東光鉄工(大館市、菅原訪順社長)と産業機器メーカーの関ヶ原製作所(本社・岐阜県不破郡関ヶ原町、矢橋英明社長)は8日、洋上風力発電設備の運用と維持管理で重

要な役割を担う「ダビットクレーン」の国産化を目指し、共同開発することで合意したと発表した。両社はそれぞれが得意とする製造技術、ノウハウなどの強みを生かし、日本の海洋に適したダビットクレーンの開発に着手する。東光鉄工は最大50ト吊りの門型クレーンの製造許可を持ち、高い溶接技術による組立を得意としている。超大型鋼構造物の製作可能な工場設備と立地の優位

性を生かし、国内初の商業用洋上風力発電所である秋田港・能代港では、基礎部材であるトランジションピースとモノパイルの仮置き場や輸送用架台を製作した実績がある。関ヶ原製作所は1946年の設立、7つの事業を展開している産業機器メーカー。50年に船舶用クレーンの製造を開始し、以来70年以上にわたり国内外で建造される船舶に搭載するクレーンや、海洋産業向け機器

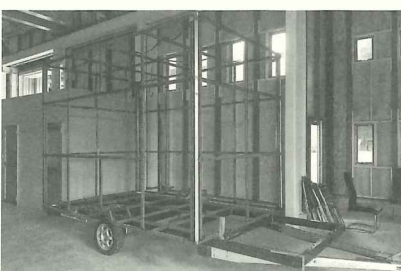
の開発など、海上という特殊な環境下で使用される機器の製造企業として高い技術力を持っている。洋上風力発電事業の風車機の耐用年数は約20年と想



国産ダビットクレーン

「ダビットクレーン」イメージ

定されている。ダビットクレーンは海上から風車機への荷役作業に必要な設備として、供給開始からおよそ20年にわたる運用と維持管理に重要な役割を担う。



牽引型トレーラー